



**Cisco UCS C シリーズ サーバ Integrated Management Controller
CLI コマンド リファレンス リリース 1.1(1)**

**Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller
CLI Command Reference, Release 1.1(1)**

初版: 2010 年 03 月 31 日

Text Part Number: OL-22385-01-J

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at <http://cisco.com/go/trademarks>. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2010 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

© 2010-2011 シスコシステムズ合同会社. All rights reserved.



目次

はじめに vii

対象読者 vii

マニュアルの構成 vii

表記法 viii

関連資料 ix

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート ix

概要 1

Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバの概要 1

CIMC CLI 2

コマンドモード 2

コマンドモードテーブル 3

コマンドの完了 4

コマンド履歴 4

保留コマンドのコミット、廃棄、および表示 4

コマンド出力形式 5

CLIに関するオンラインヘルプ 6

コマンド 7

activate (ファームウェア) 11

cancel 12

clear (ログ) 13

clear (sel) 14

clear-cmos 15

commit 16

connect 17

discard 18

exit 19

factory-default (cimc)	20
generate-csr (認証)	21
ping (ネットワーク)	23
power (シャージ)	24
reapply (BIOS)	26
reboot (シャージ)	27
recover (BIOS)	28
scope bios	30
scope certificate	31
scope chassis	32
scope cimc	33
scope fault	34
scope firmware (BIOS)	35
scope http	36
scope ipblocking (ネットワーク)	37
scope ipmi	38
scope kvm	39
scope ldap	40
scope log (cimc)	41
scope network (cimc)	42
scope pef (障害)	43
scope sel	45
scope sensor	46
scope sol	47
scope ssh	48
scope tech-support (cimc)	49
scope trap-destination (障害)	50
scope user	51
scope user-session	52
scope vmedia	53
set action (pef)	54
set addr (トラップ宛先)	56
set boot-order (BIOS)	57
set (シャージ)	59

set description (シャーシ)	61
set enabled (トラップ宛先)	62
set (障害)	63
set (http)	64
set (ipblocking)	66
set (ipmi)	68
set (kvm)	70
set (ldap)	72
set locator-led (シャーシ)	74
set (ネットワーク)	75
set (sol)	79
set (ssh)	81
set (ユーザ)	83
set (vmedia)	85
set cli output	87
set path (tech-support)	88
set send-alert (pef)	89
set tftp-ip (tech-support)	90
show actual-boot-order (BIOS)	91
show bios	92
show certificate	94
show chassis	96
show cimc	97
show configuration pending	98
show cpu (シャーシ)	99
show current (センサー)	101
show dimm (シャーシ)	102
show entries (ログ)	104
show entries (sel)	106
show fan (センサー)	108
show fault	110
show firmware (cimc)	111
show hdd (シャーシ)	113

show http	114
show ipblocking (ネットワーク)	115
show ipmi	116
show kvm	117
show ldap	118
show led (シャーシ)	119
show network (cimc)	120
show pef (障害)	121
show psu (シャーシ)	123
show psu (センサー)	124
show psu-redundancy (センサー)	125
show sol	126
show ssh	127
show tech-support (cimc)	128
show temperature (センサー)	129
show trap-destination (障害)	130
show user	131
show user-session	133
show version	134
show vmedia	135
start	136
terminate (ユーザセッション)	137
top	138
update (ファームウェア)	139
upload (認証)	140



はじめに

はじめに

ここで説明する内容は次のとおりです。

- [対象読者](#), [vii ページ](#)
- [マニュアルの構成](#), [vii ページ](#)
- [表記法](#), [viii ページ](#)
- [関連資料](#), [ix ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#), [ix ページ](#)

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

マニュアルの構成

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

タイトル	説明
概要	CIMC CLI について説明します。
コマンド	CLI コマンドについて説明します。

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	意味
bold	コマンド、キーワード、GUI 要素、およびユーザが入力したテキストは 太字 フォントで表示されます。
<i>italic</i>	マニュアルのタイトル、新規用語または重要な用語、値を指定すべき引数はイタリック体のフォントで表示されます。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。

**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

**ワンポイントアドバイス**

ここで説明されている操作を実行すると時間を短縮できることを意味します。時間を短縮するための方法が記述されています。

**警告**

「警告」です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバに関するマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『What's New in Cisco Product Documentation』は Really Simple Syndication (RSS) フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



概要

この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバの概要, 1 ページ](#)
- [CIMC CLI, 2 ページ](#)

Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバの概要

Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバは次のとおりです。

- Cisco UCS C200 M1 ラックマウント サーバ
- Cisco UCS C210 M1 ラックマウント サーバ

UCS C200 M1 ラックマウント サーバ

Cisco UCS C200 M1 サーバは 2 ソケット 1 RU の高密度ラックマウント サーバです。このサーバは、実稼動レベルのネットワーク インフラストラクチャ、Web サービス、およびメインストリーム データ センター、ブランチ オフィスおよびリモート オフィスのアプリケーション向けに構築されています。

UCS C210 M1 ラックマウント サーバ

Cisco UCS C210 M1 サーバは、2 ソケット 2 RU の汎用ラックマウント サーバです。ストレージに集中する作業負荷に対応するため、パフォーマンス、密度、および効率性のバランスを保つように設計されています。このサーバは、ネットワーク ファイルおよびアプライアンス、ストレージ、データベース、およびコンテンツ デリバリーなどのアプリケーション向けに構築されています。

CIMC CLI

CIMC CLI は、Cisco UCS C シリーズ サーバのコマンドライン管理インターフェイスです。CIMC CLI を起動し、シリアルポートまたは SSH や Telnet によるネットワーク上でサーバを管理できます。デフォルトでは、Telnet アクセスはディセーブルになっています。

CLI のユーザ ロールは、管理者、ユーザ（制御は可能だが設定は不可）、および読み取り専用のいずれかになります。



(注) 管理者パスワードが確認できず回復する必要がある場合は、ご使用のプラットフォームの Cisco UCS C シリーズ サーバインストールおよびサービス ガイドを参照してください。

コマンドモード

CLI のコマンドモードは階層構造になっています。この階層の最高レベルは EXEC モードです。高いレベルのモードは、低いレベルのモードに分岐します。高いレベルのモードから 1 つ低いレベルのモードに移動するには、**scope** コマンドを使用します。また、モード階層で 1 つ高いレベルに移動するには、**exit** コマンドを使用します。**top** コマンドは EXEC モードに戻ります。



(注) ほとんどのコマンドモードは、管理対象オブジェクトと関連付けられています。**scope** コマンドは管理対象オブジェクトを作成するものではありません。すでに管理対象オブジェクトが存在するモードにアクセスするだけです。

各モードには、そのモードで入力できるコマンドのセットが含まれています。各モードで使用できるコマンドの大半は、関連付けられた管理対象オブジェクトに関係しています。割り当てられたロールによっては、そのモードで使用できるコマンドのサブセットだけにしかアクセスできないことがあります。アクセスできないコマンドは表示されません。

各モードの CLI プロンプトは、モード階層における現在のモードまでのフルパスを表示します。これにより、コマンドモード階層での現在位置がわかりやすくなります。また、階層内を移動する必要がある場合には、非常に便利な機能です。

コマンドモードテーブル

次の表は、主要なコマンドモード、各モードへのアクセスに使用されるコマンド、および各モードに関連付けられている CLI プロンプトの一覧です。

表 1: 主要なコマンドモードとプロンプト

モード名	アクセスに使用するコマンド	モードプロンプト
EXEC	任意のモードの top コマンド	#
BIOS	EXEC モードの scope bios コマンド	/bios #
認証	EXEC モードの scope certificate コマンド	/certificate #
シャーシ	EXEC モードの scope chassis コマンド	/chassis #
cimc	EXEC モードの scope cimc コマンド	/cimc #
ファームウェア	cimc モードの scope firmware コマンド	/cimc/firmware #
ログ	cimc モードの scope log コマンド	/cimc/ log #
ネットワーク	cimc モードの scope network コマンド	/cimc/network #
IP ブロッキング	ネットワーク モードの scope ip-blocking コマンド	/cimc/network/ip-blocking #
tech-support	cimc モードの scope tech-support コマンド	/cimc/tech-support #
障害	EXEC モードの scope fault コマンド	/fault #
pef	障害モードの scope pef コマンド	/fault/pef #
トラップ宛先	障害モードの scope trap-destination コマンド	/fault/trap-destination #
http	EXEC モードの scope http コマンド	/http #
ipmi	EXEC モードの scope ipmi コマンド	/ipmi #
kvm	EXEC モードの scope kvm コマンド	/kvm #
ldap	EXEC モードの scope ldap コマンド	/ldap #

モード名	アクセスに使用するコマンド	モード プロンプト
sel	EXEC モードの scope sel コマンド	/sel #
センサー	EXEC モードの scope sensor コマンド	/sensor #
sol	EXEC モードの scope sol コマンド	/sol #
ssh	EXEC モードの scope ssh コマンド	/ssh #
ユーザ	EXEC モードの scope user user-number コマンド	/user #
ユーザ セッション	EXEC モードの scope user-session session-number コマンド	/user-session #
vmedia	EXEC モードの scope vmedia コマンド	/vmedia #

コマンドの完了

任意のモードで **Tab** キーを使用すると、コマンドを完了できます。コマンド名の一部を入力して、**Tab** キーを押すと、コマンドがすべて表示されるか、別のキーワードを選択するまたは引数値を入力する必要があるところまでが表示されます。

コマンド履歴

CLI では、現行のセッションでそれまでに使用したすべてのコマンドを保存しています。上矢印キーまたは下矢印キーを使用すると、これまでに使用したコマンドを1つずつ表示できます。上矢印キーを押すと履歴の直前にあるコマンドが、下矢印キーを押すとその次のコマンドが表示されます。履歴の最後に到達すると、下矢印キーを押しても次のコマンドが表示されなくなります。

履歴内のすべてのコマンドは、履歴を1つずつ表示し、目的のコマンドを再度呼び出し、**Enter** を押すだけでもう一度実行することができます。このコマンドは手動で入力したように表示されず、また、コマンドを再度呼び出した後、実行する前にコマンドを変更することもできます。

保留コマンドのコミット、廃棄、および表示

CLIでコンフィギュレーションコマンドを入力する場合、**commit** コマンドを入力するまで、そのコマンドは適用されません。コミットされるまで、コンフィギュレーションコマンドは保留状態となり、**discard** コマンドを入力して廃棄できます。保留中のコマンドについて、アスタリスク (*) がコマンドプロンプトの前に表示されます。この例に示すように、**commit** コマンドを入力するとそのアスタリスクは消えます。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # set locator-led off
Server /chassis *# commit
Server /chassis #
```

複数のコマンドモードで保留中の変更を積み重ね、**commit** コマンド1つでまとめて適用できます。任意のコマンドモードで **show configuration pending** コマンドを入力して、保留中のコマンドを表示できます。



(注) 複数のコマンドをまとめてコミットするのは、アトミック操作ではありません。失敗したコマンドがあっても、成功したコマンドは適用されます。失敗したコマンドはエラーメッセージで報告されます。

コマンド出力形式

ほとんどの CLI **show** コマンドではオプションの **detail** キーワードを指定でき、出力情報は表ではなくリスト形式で表示されます。**detail** キーワードを使用する場合、2種類のうちいずれかの表示形式を設定して、出力情報を表示できます。次の形式を選択できます。

- デフォルト：簡単に確認できるよう、コマンド出力はコンパクトリストで表示されます。

次に、デフォルト形式のコマンド出力例を示します。

```
Server /chassis # set cli output default
Server /chassis # show hdd detail
Name HDD_01_STATUS:
  Status : present
Name HDD_02_STATUS:
  Status : present
Name HDD_03_STATUS:
  Status : present
Name HDD_04_STATUS:
  Status : present

Server /chassis #
```

- YAML：スクリプトによる解析を簡単に行うため、コマンド出力は、定義された文字列で区切られた YAML™（YAML Ain't Markup Language）データ シリアル化言語で表示されます。

次に、YAML 形式のコマンド出力例を示します。

```
Server /chassis # set cli output yaml
Server /chassis # show hdd detail
---
  name: HDD_01_STATUS
  hdd-status: present
---
  name: HDD_02_STATUS
  hdd-status: present
---
  name: HDD_03_STATUS
  hdd-status: present
---
  name: HDD_04_STATUS
  hdd-status: present
...

Server /chassis #
```

YAML の詳細については、<http://www.yaml.org/about.html>を参照してください。

ほとんどの CLI コマンドモードでは、**set cli output default** を入力してデフォルト形式を設定するか、**set cli output yaml** を入力して YAML 形式を設定できます。

CLIに関するオンラインヘルプ

? 文字を入力すれば、いつでもコマンド構文の現在の状態で使用可能なオプションを表示することができます。プロンプトに何も入力されていない状態で?と入力するとそのときのモードで使用できるコマンドがすべて表示されます。コマンドの一部が入力されているときに?と入力すると、コマンド構文のそのときの位置で使用できるキーワードと引数がすべて表示されます。



コマンド

この章の構成は、次のとおりです。

- [activate \(ファームウェア\)](#) , 11 ページ
- [cancel](#) , 12 ページ
- [clear \(ログ\)](#) , 13 ページ
- [clear \(sel\)](#) , 14 ページ
- [clear-cmos](#) , 15 ページ
- [commit](#) , 16 ページ
- [connect](#) , 17 ページ
- [discard](#) , 18 ページ
- [exit](#) , 19 ページ
- [factory-default \(cimc\)](#) , 20 ページ
- [generate-csr \(認証\)](#) , 21 ページ
- [ping \(ネットワーク\)](#) , 23 ページ
- [power \(シャージ\)](#) , 24 ページ
- [reapply \(BIOS\)](#) , 26 ページ
- [reboot \(シャージ\)](#) , 27 ページ
- [recover \(BIOS\)](#) , 28 ページ
- [scope bios](#) , 30 ページ
- [scope certificate](#) , 31 ページ
- [scope chassis](#) , 32 ページ
- [scope cimc](#) , 33 ページ
- [scope fault](#) , 34 ページ

- `scope firmware (BIOS)` , 35 ページ
- `scope http` , 36 ページ
- `scope ipblocking (ネットワーク)` , 37 ページ
- `scope ipmi` , 38 ページ
- `scope kvm` , 39 ページ
- `scope ldap` , 40 ページ
- `scope log (cimc)` , 41 ページ
- `scope network (cimc)` , 42 ページ
- `scope pef (障害)` , 43 ページ
- `scope sel` , 45 ページ
- `scope sensor` , 46 ページ
- `scope sol` , 47 ページ
- `scope ssh` , 48 ページ
- `scope tech-support (cimc)` , 49 ページ
- `scope trap-destination (障害)` , 50 ページ
- `scope user` , 51 ページ
- `scope user-session` , 52 ページ
- `scope vmedia` , 53 ページ
- `set action (pef)` , 54 ページ
- `set addr (トラップ宛先)` , 56 ページ
- `set boot-order (BIOS)` , 57 ページ
- `set (シャーシ)` , 59 ページ
- `set description (シャーシ)` , 61 ページ
- `set enabled (トラップ宛先)` , 62 ページ
- `set (障害)` , 63 ページ
- `set (http)` , 64 ページ
- `set (ipblocking)` , 66 ページ
- `set (ipmi)` , 68 ページ
- `set (kvm)` , 70 ページ
- `set (ldap)` , 72 ページ
- `set locator-led (シャーシ)` , 74 ページ

- [set \(ネットワーク\)](#) , 75 ページ
- [set \(sol\)](#) , 79 ページ
- [set \(ssh\)](#) , 81 ページ
- [set \(ユーザ\)](#) , 83 ページ
- [set \(vmedia\)](#) , 85 ページ
- [set cli output](#) , 87 ページ
- [set path \(tech-support\)](#) , 88 ページ
- [set send-alert \(pef\)](#) , 89 ページ
- [set tftp-ip \(tech-support\)](#) , 90 ページ
- [show actual-boot-order \(BIOS\)](#) , 91 ページ
- [show bios](#) , 92 ページ
- [show certificate](#) , 94 ページ
- [show chassis](#) , 96 ページ
- [show cimc](#) , 97 ページ
- [show configuration pending](#) , 98 ページ
- [show cpu \(シャーシ\)](#) , 99 ページ
- [show current \(センサー\)](#) , 101 ページ
- [show dimm \(シャーシ\)](#) , 102 ページ
- [show entries \(ログ\)](#) , 104 ページ
- [show entries \(sel\)](#) , 106 ページ
- [show fan \(センサー\)](#) , 108 ページ
- [show fault](#) , 110 ページ
- [show firmware \(cimc\)](#) , 111 ページ
- [show hdd \(シャーシ\)](#) , 113 ページ
- [show http](#) , 114 ページ
- [show ipblocking \(ネットワーク\)](#) , 115 ページ
- [show ipmi](#) , 116 ページ
- [show kvm](#) , 117 ページ
- [show ldap](#) , 118 ページ
- [show led \(シャーシ\)](#) , 119 ページ
- [show network \(cimc\)](#) , 120 ページ

- show pef (障害) , 121 ページ
- show psu (シャージ) , 123 ページ
- show psu (センサー) , 124 ページ
- show psu-redundancy (センサー) , 125 ページ
- show sol, 126 ページ
- show ssh, 127 ページ
- show tech-support (cimc) , 128 ページ
- show temperature (センサー) , 129 ページ
- show trap-destination (障害) , 130 ページ
- show user, 131 ページ
- show user-session, 133 ページ
- show version, 134 ページ
- show vmedia, 135 ページ
- start, 136 ページ
- terminate (ユーザセッション) , 137 ページ
- top, 138 ページ
- update (ファームウェア) , 139 ページ
- upload (認証) , 140 ページ

activate (ファームウェア)

CIMC ファームウェアをアクティブにするには、**activate** コマンドを使用します。

activate

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ファームウェア (/cimc/firmware)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CIMC ファームウェアをアクティブにする例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope firmware
server /cimc/firmware # activate
server /cimc/firmware #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cimc	
show version	

cancel

テクニカル サポート プロセスを停止するには、**cancel** コマンドを使用します。

cancel

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

テクニカル サポート (/cimc/tech-support)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、テクニカル サポート プロセスを停止する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope tech-support
server /cimc/tech-support # cancel
This operation will cancel your current Tech Support upload.
Continue?[y|N]y
server /cimc/tech-support #
```

関連コマンド

コマンド	説明
start	

clear (ログ)

CIMC ログをクリアするには、ログモードで **clear** コマンドを使用します。

clear

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ログ (/cimc/log)

コマンド履歴

リリース

変更

1.0(1)

このコマンドが導入されました。

例

次に、CIMC ログをクリアする例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope log
server /cimc/log # clear
server /cimc/log #
```

関連コマンド

コマンド

説明

show sel

show sensor

clear (sel)

システム イベント ログをクリアするには、sel モードで **clear** コマンドを使用します。

clear

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

システム イベント ログ (/sel)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、システム イベント ログをクリアする例を示します。

```
server# scope sel
server /sel # clear
server /sel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show sel	
show sensor	

clear-cmos

CMOS メモリの BIOS 設定をクリアするには、**clear-cmos** コマンドを使用します。

clear-cmos

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

BIOS (/bios)

コマンド履歴

リリース	変更
1.1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CMOS メモリの BIOS 設定をクリアする例を示します。

```
server# scope bios
server /bios # clear-cmos

This operation will clear the BIOS CMOS.
Note: Server should be in powered off state to clear CMOS.
Continue?[y|n] y

server /bios #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show bios	

commit

設定変更を保存するには、**commit** コマンドを使用します。

commit

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定変更を保存する例を示します。

```
server /http # set enabled yes
server /http* # commit
server http #
```

関連コマンド

コマンド	説明
discard	

connect

サーバ CLI またはサーバ シェルに接続するには、**connect** コマンドを使用します。

connect {host | shell}

シンタックスの説明

host	サーバの CLI を指定します。
shell	サーバの GNU bash シェルを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

GNU bash シェルを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

例

次に、サーバ シェルに接続する例を示します。

```
server# connect shell
bash-3.2
```

discard

すべての設定を廃棄するには、**discard** コマンドを使用します。

discard

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、すべての設定を廃棄する例を示します。

```
server# discard
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
discard	

exit

任意のモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

exit

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、BIOS モードを終了する例を示します。

```
server /bios # exit
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
scope	
enter	

factory-default (cimc)

サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するには、**factory-default** コマンドを使用します。

factory-default

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Integrated Management Controller (/cimc)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、サーバを工場出荷時のデフォルトに設定する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # factory-default
This operation will reset the BMC configuration to factory default.
All your configuration will be lost.
Continue?[y|n] y
```


コマンド	説明
show ssh	

ping (ネットワーク)

ping を実行するには、ネットワーク モードで **ping** コマンドを使用します。

ping address

シンタックスの説明

<i>address</i>	IP アドレスまたはホスト名
----------------	----------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ネットワーク (/cimc/network)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ping を実行する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope network
server /cimc/network # ping 209.165.200.225

Press CTRL+C to stop.
PING 209.165.200.225 (209.165.200.225): 56 data bytes
64 bytes from 209.165.200.225: seq=0 ttl=122 time=2.000 ms
64 bytes from 209.165.200.225: seq=1 ttl=122 time=2.000 ms
64 bytes from 209.165.200.225: seq=2 ttl=122 time=2.000 ms
64 bytes from 209.165.200.225: seq=3 ttl=122 time=3.000 ms
64 bytes from 209.165.200.225: seq=4 ttl=122 time=2.000 ms

--- 209.165.200.225 ping statistics ---
5 packets transmitted, 5 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 2.000/2.200/3.000 ms

server /cimc/network #
```

power (シャーシ)

サーバの電源を管理するには、**power** コマンドを使用します。

power {cycle | hard-reset | off | on | shutdown}

シンタックスの説明

cycle	サーバの電源を再投入します。
hard-reset	サーバをハードリセットします。
off	サーバの電源を切ります。
on	サーバの電源を投入します。
shutdown	サーバをシャットダウンします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、サーバの電源を切る例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # power off

This operation will change the server's power state.
Continue?[y|n] y

server /chassis #
```

使用上のガイドライン

- **Cycle** : 電源を切って、入れなおします。
- **Hard reset** : 電源を切って、入れなおします。 前面パネルのリセット ボタンを押すこと、または IPMI リセットを実行することと同じです。

- Shutdown : OS をグレースフル シャットダウンしてから電源を切ります。

関連コマンド

コマンド	説明
show chassis	
show psu	

reapply (BIOS)

ブート順を再適用するには、BIOS モードで **reapply** コマンドを使用します。
このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード BIOS (/bios)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1x)	このコマンドが導入されました。

例 次に、ブート順を再適用する例を示します。

```
server# scope bios
server /bios # re-apply
Boot order has been successfully re-applied
server /bios #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set boot-order (BIOS)	
show actual-boot-order	

reboot (シャーシ)

サーバをリブートするには、**reboot** コマンドを使用します。

reboot

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Integrated Management Controller (/cimc)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。
1.0(1X)	このコマンドは廃止されています。

例

次に、サーバをリブートする例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # reboot

This operation will reboot the BMC.
Continue?[y|n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
power	

recover (BIOS)

破損した BIOS を復旧するには、ファームウェア モードで **recover** コマンドを使用します。

recover

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

BIOS (/bios)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1X)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

recover コマンドを実行する前に、次のタスクを実行します。

- BIOS 復旧 ISO イメージが使用できることの確認
- KVM コンソールの起動
- サーバの電源切断
- vMedia を使用した BIOS 復旧 ISO イメージのマッピング

recover コマンドを実行すると、サーバの電源が自動的に投入されます。復旧が終わったら、サーバの電源を再投入するか、リセットします。

例

次に、破損した BIOS を復旧する例を示します。

```
server# scope bios
server /bios # recover
```

```
This operation will automatically power on the server to perform BIOS FW recovery.
Continue?[y|N]y
```

```
server /bios #
```



(注) CLI または KVM コンソールを使用して、復旧の経過表示を監視できます。

関連コマンド

コマンド	説明
show bios	
show version	

scope bios

BIOS モードを開始するには、**scope bios** コマンドを使用します。

scope bios

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

BIOS (/bios)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

BIOS モードを使用して、サーバのブート順を設定します。

- CDROM : CD-ROM のブート
- EFI : Extensible Firmware Interface のブート
- FDD : フロッピー ディスク ドライブのブート
- HDD : ハードディスク ドライブのブート
- PXE : Preboot Execution Environment のブート

例 次に、BIOS モードを開始する例を示します。

```
server# scope bios
server /bios #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show bios	
show firmware	

scope certificate

認証モードを開始するには、**scope certificate** コマンドを使用します。

scope certificate

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

認証 (/certificate)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

認証モードを使用して、次のタスクを実行します。

- 証明書署名要求の生成
- 署名された証明書のアップロード

例

次に、認証モードを開始する例を示します。

```
server# scope certificate
server /certificate #
```

関連コマンド

コマンド	説明
generate-csr	
show certificate	

scope chassis

シャーシモードを開始するには、**scope chassis** コマンドを使用します。

scope chassis

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

シャーシモードを使用して、次のシャーシプロパティを設定します。

- サーバの説明
- サーバ ロケータ LED の状態

例

次に、シャーシモードを開始する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show chassis	
show led	

scope cimc

cimc モードを開始するには、**scope cimc** コマンドを使用します。

scope cimc

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cisco Integrated Management Controller (/cimc)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

cimc モードを使用して、次の処理を実行します。

- CIMC を工場出荷時のデフォルトにリセットする
- CIMC をリブートする

例

次に、cimc モードを開始する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cimc	
show log (cimc)	

scope fault

障害モードを開始するには、**scope fault** コマンドを使用します。

scope fault

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

障害 (/fault)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

障害モードを使用して、次の SNMP プロパティを設定します。

- コミュニティ ストリング
- プラットフォーム イベント

例

次に、障害モードを開始する例を示します。

```
server# scope fault
server /fault #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fault	
show pef	

scope firmware (BIOS)

ファームウェア モードを開始するには、BIOS モードで **scope firmware** コマンドを使用します。

scope firmware

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ファームウェア (/bios/firmware)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファームウェア モードを使用して、次のタスクを実行します。

- ファームウェアのアクティブ化およびアップロード
- ファームウェア情報の表示

例

次に、BIOS モードを開始する例を示します。

```
server# scope bios
server /bios # scope firmware
server /bios/firmware #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show bios	
show firmware	

scope http

http モードを開始するには、**scope http** コマンドを使用します。

scope http

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

HTTP (/http)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

http モードを使用して、次の HTTP プロパティを設定します。

- HTTP のイネーブルまたはディセーブル
- ポート番号および HTTP 接続タイムアウトの指定

例

次に、http モードを開始する例を示します。

```
server# scope http
server /http #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show http	
show http-port	

scope ipblocking (ネットワーク)

ipblocking モードを開始するには、ネットワーク モードで **scope ipblocking** コマンドを使用します。

scope ipblocking

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

IP ブロッキング (/cimc/network/ipblocking)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ipblocking モードを使用して、次のタスクを実行します。

- IP ブロッキングのイネーブルまたはディセーブル
- 障害カウント、障害ウィンドウ、およびペナルティ時間の設定

例

次に、ipblocking モードを開始する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope network
server /cimc/network # scope ipblocking
server /cimc/network/ipblocking #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ipblocking	
set penalty-time	

scope ipmi

ipmi モードを開始するには、**scope ipmi** コマンドを使用します。

scope ipmi

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インテリジェントプラットフォーム管理インターフェイス (Intelligent Platform Management Interface) (/ipmi)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ipmi モードを使用して、次のタスクを実行します。

- IPMI のイネーブルまたはディセーブル
- 暗号キーの作成
- セキュリティ特権レベルの設定

例

次に、ipmi モードを開始する例を示します。

```
server# scope ipmi
server /ipmi #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ipmi	
set encryption-key	

scope kvm

kvm モードを開始するには、**scope kvm** コマンドを使用します。

scope kvm

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

キーボード、ビデオ、およびマウス (/kvm)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

kvm モードを使用して、次の KVM プロパティを設定します。

- 暗号化
- KVM ポート番号
- ローカル ビデオ
- 最大セッション

例

次に、kvm モードを開始する例を示します。

```
server# scope kvm
server /kvm #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set max-sessions	
show kvm	

scope ldap

ldap モードを開始するには、**scope ldap** コマンドを使用します。

scope ldap

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

軽量ディレクトリ アクセス プロトコル (Lightweight Directory Access Protocol) (/ldap)

コマンド履歴

リリース

変更

1.0(1)

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ldap モードを使用して、次の LDAP プロパティを実行します。

- LDAP のイネーブルまたはディセーブル
- アトリビュートおよび Base DN (Base Distinguished Name) の設定
- 暗号化のイネーブル
- LDAP サーバ IP アドレスおよび接続タイムアウトの作成

例

次に、ldap モードを開始する例を示します。

```
server# scope ldap
server /ldap #
```

関連コマンド

コマンド

説明

set server-ip

show ldap

scope log (cimc)

ログモードを開始するには、cimc モードで **scope log** コマンドを使用します。

scope log

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ログ (/cimc/log)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ログモードを使用して、次のタスクを実行します。

- CIMC トレース ログのクリア
- CIMC トレース ログ エントリの表示

例

次に、ログモードを開始する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope log
server /cimc/log #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show entries	
show log	

scope network (cimc)

ネットワーク モードを開始するには、cimc モードで **scope network** コマンドを使用します。

scope network

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ネットワーク (/cimc/network)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ネットワーク モードを使用して、次のタスクを実行します。

- DHCP および DNS のイネーブル
- ホスト名の作成
- NIC モードおよび冗長性の設定
- IPv4 IP アドレス、ゲートウェイ、およびネットマスクの作成
- VLAN メンバシップ機能のイネーブル

例

次に、ネットワーク モードを開始する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope network
server /cimc/network #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set dhcp-enabled	
show network	

scope pef (障害)

pef モードを開始するには、障害モードで **scope pef** コマンドを使用します。

scope pef *pef-index*

シンタックスの説明

pef-index 特定のパフォーマンス イベント フィルタのインデックス。有効な値の範囲は 1 ~ 12 です。パフォーマンス イベント フィルタのインデックスの完全なリストについては、使用上のガイドラインを参照してください。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

パフォーマンス イベント フィルタ (/fault/pef)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

パフォーマンス イベント フィルタのインデックスのリストは次のとおりです。

- 1 : 温度緊急アサート フィルタ
- 2 : 温度警告アサート フィルタ
- 3 : 電圧緊急アサート フィルタ
- 4 : 電流アサート フィルタ
- 5 : ファン緊急アサート フィルタ
- 6 : プロセッサアサート フィルタ
- 7 : 電源モジュール緊急アサート フィルタ
- 8 : 電源モジュール警告アサート フィルタ
- 9 : 電源モジュール冗長性損失フィルタ
- 10 : ディスクリット電源モジュールアサート フィルタ
- 11 : メモリアサート フィルタ
- 12 : ドライブスロットアサート フィルタ

例 次に、pefモードを開始する例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # scope pef 3
server /fault/pef #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show pef	

scope sel

sel モードを開始するには、**scope sel** コマンドを使用します。

scope sel

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

システム イベント ログ (/sel)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

sel モードを使用して、次のタスクを実行します。

- システム イベント ログのクリア
- 設定およびシステム イベント ログ エントリの表示

例

次に、sel モードを開始する例を示します。

```
server# scope sel
server /sel #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show entries	
show sel	

scope sensor

センサー モードを開始するには、**scope sensor** コマンドを使用します。

scope sensor

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

センサー (/sensor)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1X)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

センサー モードを使用して、ファン、PSU、PSU の冗長性、温度、電圧など各センサーの情報を表示します。

例

次に、センサー モードを開始する例を示します。

```
server# scope sensor
server /sensor #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fan	
show voltage	

scope sol

sol モードを開始するには、**scope sol** コマンドを使用します。

scope sol

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Serial over LAN (/sol)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

sol モードを使用して、次のタスクを実行します。

- SoL のイネーブルまたはディセーブル
- ボー レートの設定

例

次に、sol モードを開始する例を示します。

```
server# scope sol
server /sol #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set baud-rate	
show sol	

scope ssh

ssh モードを開始するには、**scope ssh** コマンドを使用します。

scope ssh

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

セキュア シェル (/ssh)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ssh モードを使用して、次のタスクを実行します。

- SSH のイネーブルまたはディセーブル
- SSH ポート番号および接続タイムアウト間隔の設定

例

次に、ssh モードを開始する例を示します。

```
server# scope ssh
server /ssh #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set timeout (/ssh)	
show ssh	

scope tech-support (cimc)

tech-support モードを開始するには、cimc モードで **scope tech-support** コマンドを使用します。

scope tech-support

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

テクニカル サポート (/cimc/tech-support)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

tech-support モードを使用して、TFTP パスおよびサーバアドレスを設定します。

例

次に、tech-support モードを開始する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope tech-support
server /cimc/tech-support #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show tech-support	
start	

scope trap-destination (障害)

トラップ宛先モードを開始するには、障害モードで **scope trap-destination** コマンドを使用します。

scope trap-destination *trap-destination-index*

シンタックスの説明

<i>trap-destination-index</i>	特定のトラップ宛先のインデックス。有効な値の範囲は 1 ~ 4 です。トラップ宛先インデックスの詳細なリストについては、使用上のガイドラインを参照してください。
-------------------------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

トラップ宛先 (/fault/trap-destination)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

トラップ宛先インデックスは、特定のトラップ宛先の IP アドレスに対応しています。トラップ宛先インデックスは 4 つまで使用できます。トラップ宛先モードで **set addr** コマンドを使用して、インデックスと IP アドレスのペアを作ります。

例

次に、トラップ宛先モードを開始する例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # scope trap-destination 4
server /fault/trap-destination #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show trap-destination	

scope user

ユーザ モードを開始するには、**scope user** コマンドを使用します。

scope user {1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15}

シンタックスの説明

1 ユーザ 1 ~ 15 を指定します。
 ~
 15

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ (/user)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ユーザ モードを使用して、次のタスクを実行します。

- ユーザ サービスのイネーブル化
- ユーザ名、ロール、およびパスワードの作成

例

次に、ユーザ モードを開始する例を示します。

```
server# scope user
server /user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set user-name	
show user	

scope user-session

ユーザセッションモードを開始するには、**scope user-session** コマンドを使用します。

scope user-session

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザセッション (/user-session)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ユーザセッションモードを使用して、ユーザセッションの詳細を表示します。

例

次に、ユーザセッションモードを開始する例を示します。

```
server# scope user-session
server /user-session #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show user	
show user-session	

scope vmedia

vmedia モードを開始するには、**scope vmedia** コマンドを使用します。

scope vmedia

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

仮想メディア (/vmedia)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

vmedia モードを使用して、次のタスクを実行します。

- 仮想メディア サービスのイネーブル化
- 暗号化のイネーブル化

例

次に、vmedia モードを開始する例を示します。

```
server# scope vmedia
server /vmedia #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set	
show vmedia	

set action (pef)

パフォーマンス イベント フィルタの処理を設定するには、pefモードで **set action** コマンドを使用します。

set action {none | power-off | reboot | power-cycle}

シンタックスの説明

none	処理しないように指定します。
power-off	サーバの電源を切断するように指定します。
reboot	サーバをリブートするように指定します。
power-cycle	サーバの電源を再投入するように指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

パフォーマンス イベント フィルタ (/fault/pef)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン パフォーマンス イベント フィルタのインデックスのリストは次のとおりです。

- 1 : 温度緊急アサート フィルタ
- 2 : 温度警告アサート フィルタ
- 3 : 電圧緊急アサート フィルタ
- 4 : 電流アサート フィルタ
- 5 : ファン緊急アサート フィルタ
- 6 : プロセッサアサート フィルタ
- 7 : 電源モジュール緊急アサート フィルタ
- 8 : 電源モジュール警告アサート フィルタ
- 9 : 電源モジュール冗長性損失フィルタ

- 10 : ディスクリット電源モジュールアサートフィルタ
- 11 : メモリアサートフィルタ
- 12 : ドライブスロットアサートフィルタ

例 次に、パフォーマンス イベント フィルタ 3 の処理を設定する例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # scope pef 3
server /fault/pef # set action power-cycle
server /fault/pef* # commit
server /fault/pef #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show pef	

set boot-order (BIOS)

サーバのブート順を設定するには、BIOS モードで **set boot-order** コマンドを使用します。

set boot-order *boot-order*

シンタックスの説明

boot-order	サーバのブート順を設定します。
<i>boot-order</i>	サーバのブート順。 次のブート順引数を使用し、希望の順序に配列します。 <ul style="list-style-type: none"> • hdd • pxe • fdd • efi • cdrom

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

BIOS (/bios)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

引用符およびカンマを区切り文字として使用して、ブート順引数を入力します。次に例を示します。

```
"EFI","HDD","FDD","CDROM","PXE"
```

引数の大文字と小文字は区別しません。

例

次に、サーバのブート順を設定する例を示します。

```
server# scope bios
server /bios # set boot-order "EFI","HDD","FDD","CDROM","PXE"
server /bios* # commit
```

```
server /bios #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show bios	
show actual-boot-order	

set (シャーシ)

シャーシについて説明するには、シャーシモードで **set** コマンドを使用します。シャーシロケータ LED を切り替えることもできます。

```
set {description chassis-description | locator-led {on | off}}
```

シンタックスの説明

description	シャーシの説明を指定します。
<i>chassis-description</i>	シャーシの説明。有効な値の範囲は 1 ~ 64 です。
locator-led	シャーシロケータ LED かどうかを指定します。
on	サーバロケータ LED を点灯します。
off	サーバロケータ LED を消灯します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ロケータ LED はオンにすると点滅します。これにより、シャーシの場所がすぐにわかります。

例

次に、ロケータ LED を点灯する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # set locator-led on
server /chassis* # commit
server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show chassis	

コマンド	説明
show led	

set description (シャーシ)

シャーシの説明を設定するには、シャーシモードで **set description** コマンドを使用します。

set description chassis-description

シンタックスの説明

chassis-description シャーシの説明。有効な値の範囲は 1 ~ 64 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # set description testServer
server /chassis* # commit
server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show chassis	

set enabled (トラップ宛先)

サーバでトラップ宛先をイネーブルにする、またはディセーブルにするには、トラップ宛先モードで **set enabled** コマンドを使用します。

set enabled {no | yes}

シンタックスの説明

no	トラップ宛先サービスをディセーブルに指定します。
yes	トラップ宛先サービスをイネーブルに指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

トラップ宛先 (/fault/trap-destination)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、トラップ宛先サービスをイネーブルにする例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # scope trap-destination 2
server /fault/trap-destination # set enabled yes
server /fault/trap-destination* # commit
server /fault/trap-destination #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show trap-destination	

set (障害)

SNMP コミュニティを作成するには、障害モードで **set** コマンドを使用します。プラットフォーム イベントをイネーブルにすることもできます。

```
set {community-str community-name | platform-event-enabled {no | yes}}
```

シンタックスの説明

community-str	SNMP コミュニティ スtring (名前) を指定します。
<i>community-name</i>	SNMP コミュニティの名前。有効な値の範囲は 1 ~ 18 です。
platform-event-enabled	プラットフォーム イベント アラートをイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	プラットフォーム イベント アラートをディセーブルに設定します。
yes	プラットフォーム イベント アラートをイネーブルに設定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

障害 (/fault)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、SNMP コミュニティ スtring を作成する例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # set community-str cs100
server /fault* # commit
server /fault #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fault	
show pef	

set (http)

サーバの Hyper Text Transfer Protocol (HTTP) サービスを設定するには、http モードで **set** コマンドを使用します。

set {**enabled** {**no** | **yes**} | **http-port** *port-number* | **https-port** *port-number* | **timeout** *time*}

シンタックスの説明

enabled	HTTP サービスをイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	HTTP をディセーブルに指定します。
yes	HTTP をイネーブルに指定します。
http-port	HTTP サーバ ポート番号を設定します。
<i>port-number</i>	サーバの HTTP ポート番号。有効な値の範囲は 1 ~ 65536 です。 (注) この引数は https-port キーワードとともに使用することもできます。
https-port	HTTPS サーバ ポート番号を設定します。
timeout	HTTP 接続タイムアウト時間を設定します。
<i>time</i>	接続タイムアウト時間 (秒)。有効な値の範囲は 60 ~ 10800 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

HTTP (/http)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、HTTP ポート番号を設定する例を示します。

```
server# scope http
server /http # set http-port 80
server /http* # commit
```

```
server /http #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show http-port	
show https-port	

set (ipblocking)

サーバで IP ブロッキングを設定するには、ipblocking モードで **set** コマンドを使用します。

set {**enabled** {no | yes} | **fail-count** *fail-number* | **fail-window** *fail-window* | **penalty-time** *penalty-time*}

シンタックスの説明

enabled	IP ブロッキング サービスをイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	IP ブロッキングをディセーブルに指定します。
yes	IP ブロッキングをイネーブルに指定します。
fail-count	障害カウントを設定します。
<i>fail-number</i>	障害番号。有効な値の範囲は 3 ～ 10 です。
fail-window	障害ウィンドウを設定します。
<i>fail-window</i>	障害ウィンドウ。有効な値の範囲は 60 ～ 120 です。
penalty-time	ブロッキング時間を設定します。
<i>penalty-time</i>	ブロッキング時間 (秒)。有効な値の範囲は 60 ～ 10800 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

IP ブロッキング (/cimc/chassis/ipblocking)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1X)	このコマンドが導入されました。

例

次に、IP ブロッキングをイネーブルにする例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope network
server /cimc/network # scope ipblocking
server /cimc/network/ipblocking # set enabled yes
server /cimc/network/ipblocking* # commit
```

```
server /cimc/network/ipblocking #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ipblocking	

set (ipmi)

サーバに IPMI サービスを設定するには、ipmi モードで **set** コマンドを使用します。

set {**enabled** {**no** | **yes**} | **encryption-key** *encryption-key* | **privilege-level** {**admin** | **read-only** | **user**}}

シンタックスの説明

enabled	IPMI をイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	IPMI をディセーブルに指定します。
yes	IPMI をイネーブルに指定します。
encryption-key	IPMI 暗号キーを指定します。
<i>encryption-key</i>	IPMI 暗号キー。有効な値は 16 進数の 40 です。
privilege-level	IPMI 特権レベルを指定します。
admin	IPMI 特権レベルを管理者に指定します。
read-only	IPMI 特権レベルを読み取り専用を設定します。
user	IPMI 特権レベルをユーザに指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インテリジェントプラットフォーム管理インターフェイス (Intelligent Platform Management Interface) (/ipmi)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、IPMI 暗号キーを設定する例を示します。

```
server# scope ipmi
server /ipmi # set encryption-key a9 62 b5 0a 68 6e e3 02 72 ce af f1 39 f8 1e 05 f5 19 d5
e1 7f f4 71 b9 9a 41 be e3 f5 06 4e cc 0f 63 67 2e a2 9c 74 d0
```

```
server /ipmi* # commit
server /ipmi #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ipmi	

set (kvm)

サーバで KVM をイネーブルにするには、kvm モードで **set** コマンドを使用します。

set {**enabled** {**no** | **yes**} | **encrypted** {**no** | **yes**} | **kvm-port** *port-number* | **local-video** {**no** | **yes**} | **max-sessions** *number-of-sessions*}

シンタックスの説明

enabled	KVM をイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	ディセーブルに指定します。 no キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • enabled キーワードと合せて使用する場合、KVM をディセーブルに指定します。 • encrypted キーワードと合せて使用する場合、暗号化をディセーブルに指定します。 • local-video コマンドと合せて使用する場合、ローカル ビデオをディセーブルに指定します。
yes	イネーブルに指定します。 yes キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • enabled コマンドと合せて使用する場合、KVM をイネーブルに指定します。 • encrypted コマンドと合せて使用する場合、暗号化をイネーブルに指定します。 • local-video コマンドと合せて使用する場合、ローカル ビデオをイネーブルに指定します。
encrypted	KVM を暗号化するかしないかを指定します。
kvm-port	KVM ポートを指定します。
<i>port number</i>	KVM ポート番号。有効な値の範囲は 1 ～ 65535 です。
local-video	ローカル ビデオを指定します。
max-sessions	KVM セッションの最大数を指定します。
<i>number-of-sessions</i>	KVM 同時セッションの最大数。有効な値の範囲は 1 ～ 4 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード キーボード ビデオ マウス (/kvm)

コマンド履歴	リリース	変更
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **local-video** コマンドを使用して、サーバに接続された任意のモニタにKVMセッションを表示します。

例 次に、KVM をイネーブルにする例を示します。

```
server# scope kvm
server /kvm # set kvm enabled
server /kvm* # commit
server /kvm #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show kvm	

set (ldap)

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP; 軽量ディレクトリ アクセス プロトコル) ディレクトリをサーバに設定するには、ldap モードで **set** コマンドを使用します。

set {*attribute attribute-name* | **base-dn** *base-dn-name* | **enabled** {**no** | **yes**} | **encrypted** {**no** | **yes**} | **server-ip** *ip-address* | **timeout** *time*}

シンタックスの説明

attribute	LDAP アトリビュートを指定します。
<i>attribute-name</i>	アトリビュートの名前。有効な値の範囲は 1 ～ 64 です。
base-dn	LDAP ベース DN を指定します。
<i>base-dn-name</i>	ベース DN 名。有効な値の範囲は 1 ～ 63 です。
enabled	LDAP をイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	ディセーブルに指定します。 no キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • enabled キーワードに対して LDAP をディセーブルに指定します。 • encrypted キーワードに対して暗号化をディセーブルに指定します。
yes	イネーブルに指定します。 yes コマンドの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • enabled コマンドに対して LDAP をイネーブルに指定します。 • encrypted コマンドに対して暗号化をイネーブルに指定します。
encrypted	Active Directory が暗号化されているかいないかを指定します。
server-ip	Active Directory サーバの IP アドレスを指定します。
<i>ip-address</i>	Active Directory サーバの IP アドレス。形式は X.X.X.X です。
timeout	Active Directory サーバの接続タイムアウトを指定します。
<i>time</i>	接続がタイムアウトするまでの待機時間 (秒)。有効な値の範囲は 0 ～ 1800 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 軽量ディレクトリ アクセス プロトコル (Lightweight Directory Access Protocol) (/ldap)

コマンド履歴	リリース	変更
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン LDAP プロパティを設定するには、管理者としてログインする必要があります。

attribute : ユーザのロールおよびロケール情報を含む LDAP アトリビュートを指定します。このプロパティは常に名前と値がペアになっています。このアトリビュート名に一致する値のユーザレコードが照会されます。CIMC ユーザのロールおよびロケールにマッピングされている既存の LDAP アトリビュートを使用できます。次のようなアトリビュート ID を持つ CiscoAVPair アトリビュートなどのカスタム アトリビュートを作成することもできます。

1.3.6.1.4.1.9.287247.1

プロパティを指定しない場合、ユーザ アクセスは読み取り専用で制限されます。

enabled : LDAP をイネーブルにすると、すべてのユーザ認証およびロール認可が Active Directory により行われます。CIMC はローカルユーザデータベースを無視します。CIMC が Active Directory への接続を確立できない場合、戻ってローカル ユーザ データベースを使用します。

例 次に、Active Directory サーバ タイムアウト プロパティを設定する例を示します。

```
server# scope ldap
server /ldap # set timeout 100
server /ldap* # commit
server /ldap #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ldap	

set locator-led (シャーシ)

サーバロケータ LED を点灯または消灯するには、シャーシモードで **set locator-led** コマンドを使用します。

set locator-led {off| on}

シンタックスの説明

off	ロケータ LED を消灯します。
on	ロケータ LED を点灯します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ロケータ LED を点灯する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # set locator-led on
server /chassis* # commit
server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show chassis	
show led	

set (ネットワーク)

サーバでサーバネットワーク サービスを設定するには、ネットワーク モードで **set** コマンドを使用します。

```
set {alternate-dns-server ip-address | dhcp-enabled {no|yes} | dns-use-dhcp | hostname host-name | mode {dedicated | shared-lom | shipping} | preferred-dns-server | redundancy {none | active-standby} | v4-addr ip-address | v4-gateway ip-address | v4-netmask netmask | vlan-enabled {no | yes} | vlan-id vlan-id | vlan-priority priority-number}
```

シンタックスの説明

alternate-dns-server	代替 DNS サーバを指定します。
<i>ip-address</i>	DNS サーバ IP アドレス。この引数を preferred-dns-server 、 v4-addr 、および v4-gateway の各キーワードとともに使用することもできます。形式は X.X.X.X です。
dhcp-enabled	DHCP をサーバでイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	ディセーブルに指定します。 no キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • dhcp-enabled キーワードと合せて使用する場合、DHCP をディセーブルに指定します。 • vlan-enabled キーワードと合せて使用する場合、VLAN メンバシップをディセーブルに指定します。
yes	イネーブルに指定します。 yes キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • dhcp-enabled コマンドと合せて使用する場合、DHCP をイネーブルに指定します。 • vlan-enabled コマンドと合せて使用する場合、暗号化をイネーブルに指定します。
dns-use-dhcp	DNS アドレスを DHCP 経由で取得するように指定します。
hostname	サーバ名を指定します。
<i>host-name</i>	サーバの名前。有効な値の範囲は 1 ~ 63 です。

mode	サーバの NIC モードを指定します。
dedicated	サーバ ネットワーク モードを dedicated に設定します。
shared-lom	サーバ ネットワーク モードを shared LOM に設定します。
shipping	サーバ ネットワーク モードを shipping に設定します。
preferred-dns-server	優先 DNS サーバを指定します。
redundancy	冗長性をサーバでイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
none	サーバの冗長性をなしに設定します。
active-standby	サーバの冗長性をアクティブ スタンバイ フェールオーバーに設定します。
v4-addr	サーバの IPv4 IP アドレスを設定します。
v4-gateway	サーバの IPv4 ゲートウェイを設定します。
v4-netmask	サーバの IPv4 ネットマスクを設定します。
<i>net-mask</i>	IPv4 ネットマスク。形式は X.X.X.X です。
vlan-enabled	VLAN メンバシップのサーバをイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
vlan-id	VLAN ID を設定します。
<i>vlan-id</i>	VLAN の ID 番号。
vlan-priority	VLAN のプライオリティを設定します。
<i>priority-number</i>	VLAN のプライオリティ番号。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ネットワーク (/cimc/network)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。
1.0(1x)	shipping キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン

ネットワーク プロパティを設定するには、管理者権限のあるユーザでログインする必要があります。

mode : CIMC ネットワーク設定により、どのポートが CIMC に到達できるかが決まります。ご使用のプラットフォームにより、次のネットワーク モード オプションが使用できます。

- **dedicated** : 管理イーサネット ポート経由で CIMC に接続できます。
- **shared LOM** : LAN On Motherboard (LOM) イーサネット ホスト ポート経由でだけ CIMC に接続できます。
- **shipping** : 制限付きの工場出荷時のデフォルト設定を使用した管理イーサネット ポート経由で CIMC に接続できます



(注) shared LOM モードでは、すべてのホスト ポートは同じサブネットに属している必要があります。

active-standby : アクティブ/スタンバイ フェールオーバーによりスタンバイ セキュリティ アプライアンスを使用して、故障した装置の機能性を引き継ぐことができます。アクティブな装置が故障すると、この装置はスタンバイ状態になり、スタンバイしている装置がアクティブ状態になります。アクティブになるアプライアンスは、故障した装置の IP アドレスおよび MAC アドレスを使用してトラフィックの送信を開始します。

vlan-enabled : VLAN コマンドを使用すると、特定の VLAN でサーバにメンバシップをコミットします。VLAN のメンバーになる利点は次のとおりです。

- トラフィックが隔離され、セキュリティが強化されます。
- ブロードキャストおよびマルチキャスト トラフィックが減り、ネットワーク パフォーマンスが向上します。

例

次に、DHCP をイネーブルにする例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope network
server /cimc/network # set dhcp-enabled yes
server /cimc/network* # commit
server /cimc/network #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show dhcp	
show network	

set (sol)

サーバで SoL (Serial over LAN) を設定するには、sol モードで **set** コマンドを使用します。

```
set {baud-rate {9600 | 19200 | 38400 | 57600 | 115200} | enabled {no | yes}}
```

シンタックスの説明

baud-rate	SoL ボー レートを指定します。
9600	ボー レートを 9600 に設定します。
19200	ボー レートを 19200 に設定します。
38400	ボー レートを 38400 に設定します。
57600	ボー レートを 57600 に設定します。
115200	ボー レートを 115200 に設定します。
enabled	SoL をイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	SoL をディセーブルに設定します。
yes	SoL をイネーブルに設定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Serial over LAN (/sol)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Serial over LAN を設定するには、管理者権限のあるユーザでログインする必要があります。

Serial over LAN (SoL) は、管理対象システムのシリアル ポートの入出力を IP 上の SSH セッション経由でリダイレクトできるようにするメカニズムです。SoL は、CIMC 経由でホスト コンソールに到達する方法を実現します。

SoL にリダイレクトするには、次のようにサーバ コンソールを設定する必要があります。

- シリアル ポート A へのコンソール リダイレクション
- フロー制御なし
- ボー レートを SoL と同様に設定
- VT-100 端末タイプ
- レガシー OS リダイレクションをディセーブル

SoL セッションには、ブート メッセージなどのライン指向情報、および BIOS セットアップ メニューなど文字指向画面メニューが表示されます。サーバが Windows などのビットマップ指向表示でオペレーティング システムまたはアプリケーションをブートする場合、SoL セッションでは表示されません。サーバが Linux などのコマンドライン指向オペレーティング システム (OS) をブートする場合、SoL セッションでの表示を適切にするため、OS をさらに設定しなければならない場合があります。

SoL セッションでは、F2 ファンクション キーを除くキーストロークがコンソールに送信されません。F2 をコンソールに送信するには、Escape キーを押してから、2 を押します。

例 次に、ボー レートを設定する例を示します。

```
server# scope sol
server /sol # set baud-rate 115200
server /sol* # commit
server /sol #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show sol	

set (ssh)

セキュア シェル (SSH; Secure Shell) サービスをサーバに設定するには、ssh モードで **set** コマンドを使用します。

set {**enabled** {**no** | **yes**} | **ssh-port** *port-number* | **timeout** *time*}

シンタックスの説明

enabled	SSH をイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	SSH をディセーブルに設定します。
yes	SSH をイネーブルに設定します。
ssh-port	SSH ポートを指定します。
<i>port-number</i>	SSH ポート番号。有効な値の範囲は 1 ~ 65535 です。
timeout	SSH 接続タイムアウトを指定します。
<i>time</i>	接続がタイムアウトするまでの待機時間 (秒)。有効な値の範囲は 60 ~ 10800 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

セキュア シェル (/ssh)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

SSH を設定するには、管理者権限のあるユーザでログインする必要があります。

例

次に、SSH ポート番号を設定する例を示します。

```
server# scope ssh
server /ssh # set ssh-port 22
server /ssh* # commit
```

```
server /ssh #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ssh	

set (ユーザ)

サーバで設定するには、ユーザ モードで **set** コマンドを使用します。

```
set {enabled {no | yes} | name user-name | password password | role {admin | read-only | user}}
```

シンタックスの説明

enabled	ユーザ アカウントをイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	ユーザ アカウントをディセーブルに指定します。
yes	ユーザ アカウントをイネーブルに指定します。
name	ユーザの名前を設定します。
<i>user-name</i>	ユーザの名前。有効な値の範囲は 1 ～ 70 です。
password	パスワードを設定します。
<i>password</i>	パスワード。有効な値の範囲は 1 ～ 80 です。
role	ユーザ ロールを設定します。
admin	ユーザ ロールを管理者に設定します。
read-only	ユーザ ロールを読み取り専用を設定します。
user	ユーザ ロールをユーザに設定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ (/user)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ローカル ユーザを設定するには、管理者権限のあるユーザでログインする必要があります。

CLI のユーザ ロールは次の 3 つのいずれかになります。

- 管理者：設定および制御
- ユーザ：設定不可
- 読み取り専用：設定または制御を行わない

管理者パスワードが確認できず回復する必要がある場合は、ご使用のプラットフォームの Cisco UCS C シリーズ サーバ インストールおよびサービス ガイドを参照してください。

例

次に、ユーザ アカウントをイネーブルにする例を示します。

```
server# scope user
server /user # set enabled yes
server /user* # commit
server /user #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show user	
show user-session	

set (vmedia)

サーバで仮想メディア (VMedia; Virtual Media) サービスを設定するには、vmedia モードで **set** コマンドを使用します。

set {enabled {no | yes} | encrypted {no | yes}}

シンタックスの説明

enabled	VMedia サービスをイネーブルにするか、ディセーブルにするかを指定します。
no	ディセーブルに指定します。 no キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • enabled キーワードと合せて使用する場合、VMedia をディセーブルに指定します。 • encrypted キーワードと合せて使用する場合、暗号化をディセーブルに指定します。
yes	VMedia をイネーブルにするよう指定します。 イネーブルに指定します。 yes キーワードの使用方法は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • enabled コマンドと合せて使用する場合、VMedia をイネーブルに指定します。 • encrypted コマンドと合せて使用する場合、暗号化をイネーブルに指定します。
encrypted	VMedia の暗号化を設定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

仮想メディア (/vmedia)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

仮想メディアを設定するには、管理者権限のあるユーザでログインする必要があります。

例 次に、VMedia をイネーブルにする例を示します。

```
server# scope vmedia
server /vmedia # set enabled yes
server /vmedia* # commit
server /vmedia #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vmedia	

set cli output

CLI 出力を変更するには、**set cli output** コマンドを使用します。

```
set cli output {default | yaml}
```

シンタックスの説明

cli output	サーバの CLI 出力を指定します。
default	CLI 出力をデフォルトに設定します。
yaml	CLI 出力を YAML（Yet Another Markup Language）に設定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CLI 出力を YAML に変更する例を示します。

```
server# set cli output yaml
CLI output format set to yaml
server#
```

set path (tech-support)

TFTP パスを設定するには、tech-support モードで **set path** コマンドを使用します。

set path *tftp-path*

シンタックスの説明	<i>tftp-path</i>	TFTP パス
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	テクニカル サポート (/cimc/tech-support)	
コマンド履歴	リリース	変更
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン サポート データ ファイルへのパスを保存するように指定します。

Cisco Technical Assistance Center (TAC) で要求された場合、**set tftp-ip** と合せてこのタスクを実行します。このユーティリティにより、TAC での技術的な問題のトラブルシューティングおよび解決に役立つ設定情報、ログ、および診断データの要約レポートが作成されます。

例 次に、TFTP パスを設定する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope tech-support
server /cimc/tech-support # set path /test/test.bin
server /cimc/tech-support* # commit
server /cimc/tech-support #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	set tftp-ip	
	show tech-support	

set send-alert (pef)

サーバでパフォーマンス イベント フィルタ アラートをイネーブルにするには、pef モードで **set send-alert** コマンドを使用します。

set send-alert {no | yes}

シンタックスの説明

no	パフォーマンス イベント フィルタ アラートをディセーブルに指定します。
yes	パフォーマンス イベント フィルタ アラートをイネーブルに指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

パフォーマンス イベント フィルタ (/fault/pef)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、パフォーマンス イベント フィルタ アラートをサーバでイネーブルにする例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # scope pef
server /fault/pef # set send-alert yes
server /fault/pef* # commit
server /fault/pef #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show pef	

set tftp-ip (tech-support)

TFTP サーバの IP アドレスを設定するには、tech-support モードで **set tftp-ip** コマンドを使用します。

set tftp-ip *ip-address*

シンタックスの説明

ip-address TFTP サーバの IP アドレス。形式は X.X.X.X です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

テクニカル サポート (/cimc/tech-support)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

サポート データ ファイルを保存する TFTP サーバの IP アドレスを指定します。

Cisco Technical Assistance Center (TAC) で要求された場合、**set path** と合せてこのタスクを実行します。このユーティリティにより、TAC での技術的な問題のトラブルシューティングおよび解決に役立つ設定情報、ログ、および診断データの要約レポートが作成されます。

例

次に、TFTP サーバの IP アドレスを設定する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope tech-support
server /cimc/tech-support # set tftp-ip 209.165.200.225
server /cimc/tech-support* # commit
server /cimc/tech-support #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set tftp-path	
show tech-support	

show actual-boot-order (BIOS)

実際のブート順を表示するには、BIOS モードで **show actual-boot-order** コマンドを使用します。

show actual-boot-order [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) 実際のブート順の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

BIOS (/bios)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1x)	このコマンドが導入されました。

例

次に、実際のブート順を表示する例を示します。

```
server# scope bios
server /bios # show actual-boot-order

Boot Order  Type                Boot Device
-----
1           CD/DVD                CD-ROM
2           CD/DVD                Cisco Virtual CD/DVD 1.18
3           Network Device (PXE) Cisco NIC 23:0.0
4           Network Device (PXE) MBA v5.0.5 Slot 0100
5           Network Device (PXE) MBA v5.0.5 Slot 0101
6           Network Device (PXE) MBA v5.0.5 Slot 0200
7           Network Device (PXE) MBA v5.0.5 Slot 0201
8           Network Device (PXE) Cisco NIC 22:0.0
9           Internal EFI Shell   Internal EFI Shell
10          FDD                   Cisco Virtual HDD 1.18
11          FDD                   Cisco Virtual Floppy 1.18

server /bios #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set boot-order	

show bios

BIOS の情報を表示するには、**show bios** コマンドを使用します。

show bios [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) BIOS の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show bios はサーバのブート順を表示します。 **show bios detail** および BIOS モードの **show detail** は、サーバのブート順およびファームウェアのアップデート/復旧情報を表示します。

detail キーワードを使用すると、次のような使用できるブート装置のブート順が表示されます。

- CDROM : ブート可能 CD-ROM
- FDD : フロッピーディスク ドライブ
- HDD : ハードディスク ドライブ
- PXE : PXE ブート
- EFI : Extensible Firmware Interface

例

次に、サーバのブート順を表示する例を示します。

```
server# show bios
Boot Order
-----
CDROM, FDD, HDD, PXE, EFI
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set boot-order	
recover	

show certificate

サーバ証明書の情報を表示するには、**show certificate** コマンドを使用します。

show certificate [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) 証明書全体を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show certificate は、証明書のシリアル番号および証明書の有効期間を表示します。ルートモードの **show certificate detail** および認証モードの **show detail** は証明書全体を表示します。

例

次に、証明書のシリアル番号および証明書の有効期間を表示する例を示します。

```
server# show certificate
Serial Number      Valid From          Valid To
-----
001                Apr 13 13:49:00 2009 GMT Apr 11 13:49:00 2019 GMT
```

server#

次に、証明書全体を表示する例を示します。

```
server# show certificate detail
Certificate Information:
  Serial Number: 00
  Subject Country Code (CC): US
  Subject State (S): California
  Subject Locality (L): San Jose
  Subject Organization (O): ABC Inc.
  Subject Organizational Unit (OU):
  Subject Common Name (CN): abcinc.com
  Issuer Country Code (CC): US
  Issuer State (S): California
  Issuer Locality (L): San Jose
  Issuer Organization (O): Cisco Systems Inc.
  Issuer Organizational Unit (OU):
```

```
Issuer Common Name (CN): cisco.com  
Valid From: Sep  8 22:53:59 2009 GMT  
Valid To: Sep  6 22:53:59 2019 GMT
```

```
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
generate-csr	
upload	

show chassis

シャーシの情報を表示するには、**show chassis** コマンドを使用します。

show chassis [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) シャーシの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show chassis は、シャーシの情報を表形式で表示します。**show chassis detail** およびシャーシモードの **show detail** は、シリアル番号、製品名、PID、UUID、および説明を表示します。さらに、シャーシ電源の状態およびロケータ LED の状態を表示します。

例

次に、シャーシの情報を表形式で表示する例を示します。

```
server# show chassis

Power Serial Number Product Name  UUID
-----
on     QTF-0934-00    R100-1120402  208F4277020FBADBADBEA80000DEAD00

server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set locator-led	

show cimc

CIMC の情報を表示するには、**show cimc** コマンドを使用します。

show cimc [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) CIMC の詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	------------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show cimc は、CIMC の情報を表形式で表示します。**show cimc detail** および cimc モードの **show detail** は、ファームウェア バージョンおよびブート ロード バージョンを表示します。

例

次に、CIMC の情報を表形式で表示する例を示します。

```
server# show cimc

Firmware Version      Current Time
-----
1.0(0.86)             Fri Oct  2 12:19:17 2009

server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show firmware	
show log (cimc)	

show configuration pending

コミットされていないコンフィギュレーション コマンドを表示するには、**show configuration pending** コマンドを使用します。

show configuration pending

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、コミットされていないコンフィギュレーション コマンドを表示する例を示します。

```
server /cimc/network *# show configuration pending

Modify /cimc/network
  hostname SanJoseServer3
  dhcp-enabled yes
  v4-addr 10.20.30.111
  dns-use-dhcp yes

server /cimc/network *#
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	
discard	

show cpu (シャーシ)

CPU の情報を表示するには、シャーシモードで **show cpu** コマンドを使用します。

show cpu [detail]

シンタックスの説明	detail	(任意) CPU の詳細情報をリスト形式で表示します。
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	シャーシ (/chassis)	
コマンド履歴	リリース	変更
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show cpu** は、CPU をリスト形式で表示します。 **show cpu detail** は、各 CPU の情報を表示します。CPU のリスト表示を管理するコマンドは次のとおりです。

- Enter キー：次行
- スペースバー：次ページ
- q キー：終了
- r キー：残りの表示

例 次に、CPU の詳細情報を表示する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # show cpu detail

Name CPU1:
Manufacturer: Intel(R) Corporation
Family: Xeon
Thread Count : 8
Cores : 4
Serial No.: Not Specified
Version: Intel(R) Xeon(R) CPU L5520 @ 2.27GHz
Speed (Mhz) : 2266
Max. Speed (Mhz) : 4000
Signature: "Signature: Type 0, Family 6, Model 26, Stepping 5
Status: Enabled
```

show cpu (シャーシ)

```
Name CPU2:
  Manufacturer: Intel(R) Corporation
  Family: Xeon
  Thread Count : 8
  Cores : 4
  Serial No.: Not Specified
  Version: Intel(R) Xeon(R) CPU           L5520 @ 2.27GHz
  Speed (Mhz) : 2266
  Max. Speed (Mhz) : 4000
  Signature: "Signature: Type 0, Family 6, Model 26, Stepping 5
  Status: Enabled

server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show dimm	
show psu	

show current (センサー)

現在のセンサーのステータス情報を表示するには、センサーモードで **show current** コマンドを使用します。

show current [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) 電圧センサーのステータスに関する詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンドモード

センサー (/sensor)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、現在のセンサーのステータス情報を表示する例を示します。

```
server# scope sensor
server /sensor # show current detail
Name VR_CPU1_IOUT:
  Sensor Status: Normal
  Reading: 15.65
  Units: AMP
  Min. Warning: N/A
  Max. Warning: 152.68
  Min. Failure: N/A
  Max. Failure: 164.04
Name VR_CPU2_IOUT:
  Sensor Status: Normal
  Reading: 11.39
  Units: AMP
  Min. Warning: N/A
  Max. Warning: 152.68
  Min. Failure: N/A
  Max. Failure: 164.04

server /sensor #
```

show dimm (シャーシ)

シャーシの DIMM (Dual Inline Memory Module) の情報を表示するには、シャーシモードで **show dimm** コマンドを使用します。

show dimm [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) DIMM の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show dimm は DIMM のリストを表示します。 **show dimm detail** は、各 DIMM の容量、速度、およびタイプを表示します。

DIMM のリストの表示を管理するコマンドは次のとおりです。

- Enter キー：次行
- スペースバー：次ページ
- q キー：終了
- r キー：残りの表示

例

次に、DIMM の詳細情報を表示する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # show dimm detail
```

```
Name DIMM_A1:
  Capacity (MB): 2048
  Speed (MHz): 1067
  Type: Other
Name DIMM_A2:
  Capacity (MB): 0
  Speed (MHz): 1067
```

```
Type: Other
Name DIMM_B1:
  Capacity (MB): 0
  Speed (MHz): 1067
  Type: Other
Name DIMM_B2:
  Capacity (MB): 0
  Speed (MHz): 1067
  Type: Other
Name DIMM_C1:
  Capacity (MB): 0
  Speed (MHz): 1067
  Type: Other
Name DIMM_C2:
  Capacity (MB): 0
  Speed (MHz): 1067
--More--
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cpu	

show entries (ログ)

CIMC イベント ログを表示するには、ログ モードで **show entries** コマンドを使用します。

show entries [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) CIMC イベント ログの詳細を表示します。
---------------	-----------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ログ (/cimc/log)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show entries は、トレース ログ エントリを連続文字列形式で表示します。**show entries detail** は、各トレース ログ エントリの時間、発信元、および説明をリスト形式で表示します。

ログの表示で使用するコマンドは次のとおりです。

- Enter キー：次行
- スペースバー：次ページ
- q キー：終了
- r キー：残りの表示

例

次に、詳細イベント ログを表示する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope log
server /cimc/log # show entries detail

Trace Log:
  Time: 1970 Jan 2 17:04:57
  Source: BMC:dropbear:-
  Description: " pam_session_manager(sshd:session): session (37) opened for user admin
from 10.21.115.69 by (uid=0) "
  Order: 0
Trace Log:
  Time: 1970 Jan 2 17:04:57
```

```

Source: BMC:dropbear:-
Description: " pam_auth_status(sshd:session): Login Successfull for user=admin,
host=10.21.115.69 "
Order: 1
Trace Log:
Time: 1970 Jan 2 17:04:57
Source: BMC:dropbear:-
Description: " pam_pass_if(sshd:session): unknown option: privilege=privIsLoginUser "
Order: 2
Trace Log:
Time: 1970 Jan 2 17:04:57
Source: BMC:dropbear:-
Description: " pam_ldap_manager(sshd:auth): Start -----> "
Order: 3
--More--

```

関連コマンド

コマンド	説明
show entries (sel)	

show entries (sel)

システム イベント ログを表示するには、sel モードで **show entries** コマンドを使用します。

show entries [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) システム イベント ログの詳細情報を表示します。
---------------	-------------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

SEL (/sel)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show entries は、システム イベント ログ エントリを連続文字列で表示します。 **show entries detail** は、各システム イベント ログ エントリの時間、発信元、および説明をリスト形式で表示します。ログの表示で使用するコマンドは次のとおりです。

- Enter キー：次行
- スペースバー：次ページ
- q キー：終了
- r キー：残りの表示

例

次に、システム イベント ログを表示する例を示します。

```
server# scope sel
server /sel # show entries
```

Time	Severity	Description
[System Boot]	Informational	" LED_PSU_STATUS: Platform sensor, OFF event was asserted"
[System Boot]	Informational	" LED_HLTH_STATUS: Platform sensor, GREEN was asserted"
[System Boot]	Normal	" PSU_REDUNDANCY: PS Redundancy sensor, Fully Redundant was asserted"
[System Boot]	Normal	" PSU2_PSU2_STATUS: Power Supply sensor for PSU2, Power Supply input lost (AC/DC) was deasserted"

```
[System Boot]      Informational " LED_PSU_STATUS: Platform sensor, ON event was asserted"
[System Boot]      Informational " LED_HLTH_STATUS: Platform sensor, AMBER was asserted"
[System Boot]      Critical      " PSU_REDUNDANCY: PS Redundancy sensor, Redundancy Lost
was asserted"
[System Boot]      Critical      " PSU2 PSU2_STATUS: Power Supply sensor for PSU2, Power
Supply input lost (AC/DC) was asserted"
[System Boot]      Normal      " HDD_01_STATUS: Drive Slot sensor, Drive Presence was
asserted"
[System Boot]      Critical      " HDD_01_STATUS: Drive Slot sensor, Drive Presence was
deasserted"
[System Boot]      Informational " DDR3_P2_D1_INFO: Memory sensor, OFF event was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P1_C2_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P1_C1_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P1_B2_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P1_B1_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P1_A2_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
[System Boot]      Normal      " DDR3_P1_A1_PRS: Presence sensor, Device Inserted /
Device Present was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P2_F2_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
[System Boot]      Critical      " DDR3_P2_F1_PRS: Presence sensor, Device Removed / Device
Absent was asserted"
--More--
```

関連コマンド

コマンド	説明
show entries (ログ)	

show fan (センサー)

ファンセンサーの情報を表示するには、センサーモードで **show fan** コマンドを使用します。

show fan [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) 表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

センサー (/sensor)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ファンセンサーの情報を表示する例を示します。

```
Server# scope sensor
Server /sensor # show fan
```

Name	Sensor Status	Reading	Units	Min. Warning	Max. Warning
Min. Failure	Max. Failure				
PSU1_FAN_1	Normal	6592	RPM	N/A	N/A
N/A	N/A				
PSU2_FAN_1	Normal	2560	RPM	N/A	N/A
N/A	N/A				
W793_FAN1_TACH1	Normal	5300	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN1_TACH2	Normal	5400	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN2_TACH1	Normal	5500	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN2_TACH2	Normal	5400	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN3_TACH1	Normal	5300	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN3_TACH2	Normal	5500	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN4_TACH1	Normal	5300	RPM	N/A	N/A
800	N/A				
W793_FAN4_TACH2	Normal	5500	RPM	N/A	N/A
800	N/A				

--More--

```
Server /sensor # show fan detail
Name PSU1_FAN_1:
```

```

Sensor Status: Normal
Reading: 7872
Units: RPM
Min. Warning: N/A
Max. Warning: N/A
Min. Failure: N/A
Max. Failure: N/A
Name PSU2_FAN_1:
Sensor Status: Normal
Reading: 2496
Units: RPM
Min. Warning: N/A
Max. Warning: N/A
Min. Failure: N/A
Max. Failure: N/A
Name W793_FAN1_TACH1:
Sensor Status: Normal
Reading: 5300
Units: RPM
Min. Warning: N/A
Max. Warning: N/A
Min. Failure: 800
Max. Failure: N/A
Name W793_FAN1_TACH2:
Sensor Status: Normal
Reading: 5400
Units: RPM
Min. Warning: N/A
Max. Warning: N/A
Min. Failure: 800
Max. Failure: N/A
Name W793_FAN2_TACH1:
Sensor Status: Normal
Reading: 5500
Units: RPM
Min. Warning: N/A
Max. Warning: N/A
Min. Failure: 800
Max. Failure: N/A
Name W793_FAN2_TACH2:
Sensor Status: Normal
--More--
    
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cpu	

show fault

サーバの SNMP サービスの情報を表示するには、**show fault** コマンドを使用します。

show fault [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) SNMP サービスの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show fault は SNMP サービスの情報を表形式で表示します。 **show fault**、**show fault detail**、および障害モードの **show detail** は、コミュニティストリングおよびプラットフォームイベントがイネーブルかどうかの情報を表示します。

例

次に、表形式で SNMP サービス情報を表示する例を示します。

```
server# show fault
SNMP Community String Platform Event Enabled
-----
33West                yes
34West                no
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show pef	
show trap-destination	

show firmware (cimc)

サーバのファームウェアの情報を表示するには、cimc モードで **show firmware** コマンドを使用します。

show firmware [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) ファームウェアの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

CIMC (/cimc)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show firmware はファームウェア情報を表形式で表示します。 **show firmware detail** およびファームウェアモードの **show detail** は、アップデート、ファームウェアバージョン、およびブートローダバージョンの情報を表示します。

例

次に、アップデート、ファームウェアバージョン、およびブートローダバージョンの情報を表示する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # show firmware detail

Firmware Image Information:
  Update Stage: NONE
  Update Progress: 100
  Current FW Version: 1.0(0.86)
  FW Image 1 Version: 1.0(0.86)
  FW Image 1 State: RUNNING ACTIVATED
  FW Image 2 Version: 1.0(0.74)
  FW Image 2 State: BACKUP INACTIVATED

server /cimc #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cimc	
show version	

show hdd (シャーシ)

シャーシに取り付けられたハードディスク ドライブ (HDD) の情報を表示するには、シャーシモードで **show hdd** コマンドを使用します。

show hdd [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) HDD の詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	-----------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis #)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、シャーシに取り付けられた HDD の情報を表示する例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # show hdd
Name                               Status
-----
HDD_01_STATUS                       present
HDD_02_STATUS                       present
HDD_03_STATUS                       present
HDD_04_STATUS                       present

Server /chassis # show hdd detail
Name HDD_01_STATUS:
      Status : present
Name HDD_02_STATUS:
      Status : present
Name HDD_03_STATUS:
      Status : present
Name HDD_04_STATUS:
      Status : present

Server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show psu	

show http

サーバの HTTP サービスの情報を表示するには、**show http** コマンドを使用します。

show http [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) HTTP サービスの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show http は HTTP 情報を表形式で表示します。**show http detail** および http モードの **show detail** は、HTTP ポート、セッションタイムアウト、およびセッションアクティビティの情報を表示します。

例

次に、HTTP サービスの情報を表形式で表示する例を示します。

```
server# show http
HTTP Port  HTTPS Port  Timeout  Active Sessions  Enabled
-----
80          443           1800     0                  yes
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set http-port	
set https-port	

show ipblocking (ネットワーク)

ネットワーク IP ブロッキング設定の情報を表示するには、ネットワークモードで **show ipblocking** コマンドを使用します。

show ipblocking [detail]

シンタックスの説明	detail	(任意) IP ブロッキング設定の詳細情報をリスト形式で表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	IP ブロッキング (/cimc/network)	
コマンド履歴	リリース	変更
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、IP ブロッキング設定の情報を表示する例を示します。	
	<pre>server# scope cimc Server /cimc # scope network server /cimc/network # show ipblocking detail IP Blocking Setting: Enabled: no Fail Count: 5 Fail Window: 60 Blocking Time: 300 server /cimc/network #</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show network	

show ipmi

サーバの Intelligent Platform Management Interface (IPMI; インテリジェントプラットフォーム管理インターフェイス) の設定およびステータスの情報を表示するには、**show ipmi** コマンドを使用します。

show ipmi [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) サーバの IPMI の設定およびステータスの詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、IPMI の設定およびステータスの情報を表示する例を示します。

```
server# show ipmi detail

IPMI over LAN Settings:
  Enabled: yes
  Encryption Key: abcdef01234567890abcdef01234567890abcdef
  Privilege Level Limit: admin

server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set enabled (ipmi)	
set encryption-key (ipmi)	

show kvm

KVM の情報を表示するには、**show kvm** コマンドを使用します。

show kvm [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) KVM の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、KVM の情報を表示する例を示します。

```
server# show kvm
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
-----
no                no                0                yes      2068
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set kvm-port	
set max-sessions (kvm)	

show ldap

Active Directory の設定およびステータスの情報を表示するには、**show ldap** コマンドを使用します。

show ldap [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) Active Directory の設定およびステータスの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、Active Directory の設定およびステータスの情報を表示する例を示します。

```
server# show ldap detail

LDAP Settings:
  Server IP: 10.20.30.136
  BaseDN: example.com
  Encrypted: no
  Timeout: 60
  Enabled: no
  Attribute: CiscoAvPair

server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set server-ip (ldap)	
set base-dn (ldap)	

show led (シャーシ)

サーバ LED の情報を表示するには、シャーシ コマンド モードで **show led** コマンドを使用します。

show led [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) サーバ LED の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、サーバ LED の情報を表示する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # show led
```

LED Name	LED State	LED Color
DDR3_P2_D1_INFO	OFF	AMBER
DDR3_P1_A1_INFO	OFF	RED
LED_HLTH_STATUS	ON	GREEN
LED_FPID	OFF	BLUE
LED_PSU_STATUS	OFF	AMBER
LED_DIMM_STATUS	ON	GREEN
LED_CPU_STATUS	ON	GREEN

関連コマンド

コマンド	説明
set locator-led	

show network (cimc)

サーバネットワーク設定の情報を表示するには、cimc モードで **show network** コマンドを使用します。

show network [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) サーバネットワーク設定の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

CIMC (/cimc)

コマンド履歴

リリース

変更

1.0(1)

このコマンドが導入されました。

例

次に、サーバネットワーク設定の情報を表示する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # show network

DHCP Enabled VLAN Enabled
-----
no                no

server#
```

関連コマンド

コマンド

説明

set dhcp-enabled

show ipblocking

show pef (障害)

Platform Event Filter (PEF; プラットフォーム イベント フィルタ) の設定およびステータスの情報を表示するには、障害モードで **show pef** コマンドを使用します。

show pef [*pef-name*][*detail*]

シンタックスの説明

<i>pef-number</i>	(任意) 指定された PEF の情報を表示します。 <i>pef-number</i> 変数を省略すると、すべての PEF の情報が表示されます。
detail	(任意) 詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

障害 (/fault)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、すべての PEF の設定およびステータスの情報を表示する例を示します。

```

Server# scope fault
Server /fault # show pef

Platform Event Filter Event                Action      Send Alert
-----
1      Temperature Critical Assert Filter     none       no
2      Temperature Warning Assert Filter       none       no
3      Voltage Critical Assert Filter          none       no
4      Voltage Warning Assert Filter           none       no
5      Current Assert Filter                   none       no
6      Fan Critical Assert Filter              none       no
7      Fan Warning Assert Filter               none       no
8      Processor Assert Filter                  none       no
9      Power Supply Critical Assert Filter     none       no
10     Power Supply Warning Assert Filter      none       no
11     Power Supply Redundancy Lost Filter     none       no
12     Discrete Power Supply Assert Filter     none       no
13     Memory Assert Filter                    none       no
14     Drive Slot Assert Filter                 none       no

server /fault #
    
```

関連コマンド

コマンド	説明
set platform-event-enabled	

show psu (シャーシ)

Power Supply Unit (PSU; 電源モジュール) の情報を表示するには、シャーシモードで **show psu** コマンドを使用します。

show psu [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) PSU の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

シャーシ (/chassis)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、シャーシの PSU の情報を表示する例を示します。

```
server# scope chassis
server /chassis # show psu detail
```

```
Name PSU1:
  In. Power (Watts): 103
  Out. Power (Watts): 0
  Firmware :
  Status : Present
```

```
server /chassis #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voltage	

show psu (センサー)

Power Supply Unit (PSU; 電源モジュール) センサーのステータスに関する情報を表示するには、センサーモードで **show psu** コマンドを使用します。

show psu [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) PSU センサーの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

センサー (/sensor)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、PSU センサーのステータスに関する情報を表示する例を示します。

```
server# scope sensor
server /sensor # show psu
```

Name	Min. Failure	Sensor Status Max. Failure	Reading	Units	Min. Warning	Max. Warning
PSU1_POUT	N/A	Normal 680	68	Watts	N/A	652
PSU1_PIN	N/A	Normal 680	76	Watts	N/A	652
PSU1_STATUS		Normal	present			
PSU2_STATUS		Critical	absent			

```
server /sensor #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voltage	

show psu-redundancy (センサー)

Power Supply Unit (PSU; 電源モジュール) の冗長性のステータスに関する情報を表示するには、センサーモードで **show psu-redundancy** コマンドを使用します。

show psu-redundancy [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) PSU の冗長性のステータスに関する詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンドモード

センサー (/sensor)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、PSU の冗長性のステータスに関する情報を表示する例を示します。

```
server# scope sensor
server /sensor # show psu-redundancy detail

Name PSU_REDUNDANCY:
  Reading: full
  Sensor Status: Normal

server /sensor #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show psu	

show sol

SoL (Serial over LAN) 設定の情報を表示するには、**show sol** コマンドを使用します。

show sol [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) SoL (Serial over LAN) 設定の詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	---

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ルート (/server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、SoL 設定の情報を表示する例を示します。

```
server# show sol detail

Serial Over LAN:
  Enabled: no
  Baud Rate(bps): 115200

server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set baud-rate	

show ssh

サーバのセキュア シェル (SSH; Secure Shell) 設定の情報を表示するには、**show ssh** コマンドを使用します。

show ssh [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) SSH 設定の詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	-------------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、SSH 設定の情報を表示する例を示します。

```
server# show ssh detail
```

```
SSH Settings:
  SSH Port: 22
  Timeout: 10800
  Max Sessions: 4
  Active Sessions: 1
  Enabled: yes
```

```
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set enabled (ssh)	
set ssh-port (ssh)	

show tech-support (cimc)

tech-support ユーティリティの設定情報を表示するには、cimc モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support [detail]

シンタックスの説明

detail (任意) tech-support ユーティリティ設定の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

CIMC (/cimc)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、tech-support ユーティリティの設定情報を表示する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # show tech-support detail

Tech Support:
  TFTP Server Address: 10.20.30.211
  TFTP Path: /user/tech-support
  Progress(%): 100
  Status: COMPLETED

server /cimc #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set path (tech-support)	
set tftp-ip (tech-support)	

show temperature (センサー)

温度センサーのステータス情報を表示するには、センサーモードで **show temperature** コマンドを使用します。

show temperature [detail]

シンタックスの説明	detail	(任意) 温度センサーのステータスの詳細情報をリスト形式で表示します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンドモード	センサー (/sensor)	
コマンド履歴	リリース	変更
	1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、温度センサーのステータス情報を表示する例を示します。

```
server# scope sensor
server /sensor # show temperature
```

Name	Sensor Status	Reading	Units	Min. Warning	Max. Warning
Min. Failure	Max. Failure				
IOH_TEMP_SENS	Normal	42.0	C	N/A	80.0
N/A		85.0			
P2_TEMP_SENS	Normal	43.0	C	N/A	80.0
N/A		81.0			
P1_TEMP_SENS	Normal	45.0	C	N/A	80.0
N/A		81.0			
DDR3_P2_D1_TMP	Normal	28.0	C	N/A	90.0
N/A		95.0			
DDR3_P1_A1_TMP	Normal	30.0	C	N/A	90.0
N/A		95.0			
PSU1_TEMP_1	Normal	40.0	C	N/A	60.0
N/A		65.0			
PSU2_TEMP_1	Normal	40.0	C	N/A	60.0
N/A		65.0			
FP_AMBIENT_TEMP	Normal	22.0	C	N/A	40.0
N/A		45.0			

```
server /sensor #
```

show trap-destination (障害)

SNMP トラップ宛先の情報を表示するには、障害モードで **show trap-destination** コマンドを使用します。

show trap-destination [*trap-destination-number*] [**detail**]

シンタックスの説明

<i>trap-destination-number</i>	指定された SNMP トラップ宛先だけの情報を表示します。 <i>trap-destination-number</i> 変数を省略すると、すべての SNMP トラップ宛先の情報が表示されます。
detail	(任意) SNMP トラップ宛先の詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

障害 (/fault)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、SNMP トラップ宛先の情報を表示する例を示します。

```
server# scope fault
server /fault # show trap-destination

Trap Destination IP Address      Enabled
-----
1                209.165.200.225  yes
2                0.0.0.0          no
3                0.0.0.0          no
4                0.0.0.0          no

server /fault #
```

関連コマンド

コマンド	説明
set addr (トラップ宛先)	

show user

サーバのユーザプロファイルの情報を表示するには、**show user** コマンドを使用します。

show user [*user-number*] [**detail**]

シンタックスの説明

<i>user-number</i>	(任意) 指定されたユーザプロファイルだけ表示します。 <i>user-number</i> 変数を省略すると、すべてのユーザプロファイルが表示されます。
detail	(任意) 詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、すべてのユーザプロファイルの情報を表示する例を示します。

```
server# show user
User  Name          Role          Enabled
-----
1     admin         admin         yes
2     jsmith        admin         yes
3     (n/a)         (n/a)         no
4     (n/a)         (n/a)         no
5     bjones        readonly     yes
6     (n/a)         (n/a)         no
7     (n/a)         (n/a)         no
8     (n/a)         (n/a)         no
9     (n/a)         (n/a)         no
10    (n/a)         (n/a)         no
11    (n/a)         (n/a)         no
12    (n/a)         (n/a)         no
13    (n/a)         (n/a)         no
14    (n/a)         (n/a)         no
15    (n/a)         (n/a)         no
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set enabled (ユーザ)	
set name (ユーザ)	

show user-session

現在のユーザセッション情報を表示するには、**show user-session** コマンドを使用します。

show user-session [*session-number*] [**detail**]

シンタックスの説明

<i>session-number</i>	特定のセッション情報を表示します。
detail	(任意) 現在のユーザセッションの詳細情報をリスト形式で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、現在のユーザセッションすべてのユーザセッション情報を表示する例を示します。

```
server# show user-session
```

ID	Name	IP Address	Type	Killable
4	admin	10.20.30.123	CLI	yes
2	admin	10.20.30.185	vKVM	yes
5	read-only	10.20.30.187	CLI	no

```
server#
```

次に、特定のユーザセッションのユーザセッション情報を表示する例を示します。

```
server# show user-session 2
```

ID	Name	IP Address	Type	Killable
2	admin	10.20.30.185	vKVM	yes

```
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show user	

show version

実行中のファームウェアのバージョン番号を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

show version [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) 実行中のファームウェアのバージョン番号をリスト形式で表示します。
---------------	---------------------------------------

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、実行中のファームウェアのバージョンを表示する例を示します。

```
server# show version

Firmware Version
-----
1.0(0.82)

server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
activate (ファームウェア)	

show vmedia

仮想メディアのステータスおよび設定の情報を表示するには、**show vmedia** コマンドを使用します。

show vmedia [detail]

シンタックスの説明

detail	(任意) 仮想メディアのステータスおよび設定の詳細情報をリスト形式で表示します。
---------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルート (server#)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、仮想メディアのステータスおよび設定の情報を表示する例を示します。

```
server# show vmedia
Encryption Enabled Active Sessions
-----
no                          0
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
set encryption (vmedia)	

start

テクニカル サポート プロセスを開始するには、**start** コマンドを使用します。

start

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

テクニカル サポート (/cimc/tech-support)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、テクニカル サポート プロセスを開始する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope tech-support
server /cimc/tech-support # start
Tech Support upload started.
server /cimc/tech-support #
```

関連コマンド

コマンド	説明
cancel	

terminate (ユーザセッション)

CLIセッションを終了するには、ユーザセッションモードで **terminate** コマンドを使用します。

terminate

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザセッション (/user-session)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CLIセッションを終了する例を示します。

```
server# scope user-session
server /user-session # terminate
```

関連コマンド

コマンド	説明
show user-session	

top

他の任意のモードからルートモードに戻るには、**top** コマンドを使用します。

top

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンドモード

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ログモードからルートモードを開始する例を示します。

```
server /cimc/log # top
server#
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	

update (ファームウェア)

サーバファームウェアを更新するには、**update** コマンドを使用します。

update *ip-address file-path*

シンタックスの説明

<i>ip-address</i>	TFTP サーバの IP アドレス。形式は X.X.X.X です。
<i>file-path</i>	TFTP サーバ上のアップデート ファイルへのパス。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ファームウェア (/cimc/firmware)

コマンド履歴

リリース	変更
1.0(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、サーバファームウェアを更新する例を示します。

```
server# scope cimc
server /cimc # scope firmware
server /cimc/firmware # update 209.165.200.225 //test/cimc66-78.bin
  <CR> Press Enter key
Firmware update has started.
Please check the status using "show detail"
server /cimc/firmware #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cimc	
show version	

upload (認証)

証明書をアップロードするには、認証モードで **upload** コマンドを使用します。

このコマンドには引数やキーワードはありません。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 認証 (/certificate)

コマンド履歴

リリース

変更

1.0(1x)

このコマンドが導入されました。

例 次に、証明書をアップロードする例を示します。

```
server# scope certificate
server /certificate # upload
Please paste your certificate here, when finished, press CTRL+D.

MIIB0TCCAToCAQAwbDELMAkGA1UEBhMCVVMx CzA JBgNVBAgTAKNBMQ0wCwYDVQQH
EwRoZXMwCgYDVQQKEwN0aW0x CzA JBgNVBAStAjAxMQwwCgYDVQQDEwNlb2Ix
GDAWBgkqhkiG9w0BCQEWCW1lQG1lLmNvbTCBnzANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOBjQAw
gYkCgYEAw49pYuDXdOfHtXwBT7k5kX1set/I3e8TtkuO/EQ5Hvd9HrPIy4Kpb3Oj
33CkqjysVVBpPSGzWA1EL6czYs5p6JxR74+tgW5BYpNKRLNFawpsTzvCXhe/n/O2
WYsxlFnWlm6BgQnPKCBCp9R1ESmq9Np24r2c3PEStZEjeIVWbaUCAwEAAaAlMCMG
CSqGSIB3DQEJBzEWExRBIgNoYwxsZW5nZSBwYXNzd29yZDANBgkqhkiG9w0BAQUF
AAOBgQBosXif9feLXHBK19kqeVZ8ugRgoMIcM03aBTImjIO1RgwhRLuMrG2l+thA
CT+fbYOYXJ4bHsn25XQjcSdG0uxsti3C2SnK83nKdulpeZBzj545rvH20QK+RtHN
YUBEKvABCeQoIUu+ErMtGvryaQw7WQiQjWf+RTf8IXDGS hIQwQ==

server /certificate #
```

関連コマンド

コマンド

説明

generate-csr (認証)

show certificate



索引

A

activate (ファームウェア) 11

C

cancel 12
CIMC CLI 2
clear-cmos 15
clear (sel) 14
clear (ログ) 13
commit 16
connect 17

D

discard 18

E

exit 19

F

factory-default (cimc) 20

G

generate-csr (認証) 21

P

ping (ネットワーク) 23
power (シャーンシ) 24

R

reapply 26
reboot (シャーンシ) 27
recover (ファームウェア) 28

S

scope bios 30
scope certificate 31
scope chassis 32
scope cimc 33
scope description (シャーンシ) 61
scope fault 34
scope firmware 35
scope http 36
scope ipblocking (ネットワーク) 37
scope ipmi 38
scope kvm 39
scope ldap 40
scope log (cimc) 41
scope network (cimc) 42
scope pef 43
scope sel 45
scope sensor 46
scope sol 47
scope ssh 48
scope tech-support (cimc) 49
scope trap-destination (障害) 50
scope user 51
scope user-session 52
scope vmedia 53
set action (pef) 54
set addr (トラップ宛先) 56
set boot-order (BIOS) 57
set chassis 59
set cli output 87
set enabled (トラップ宛先) 62
set (http) 64

set (ipblocking) 66
 set (ipmi) 68
 set (kvm) 70
 set (ldap) 72
 set locator-led (シャーンシ) 74
 set path (tech-support) 88
 set send-alert (pef) 89
 set (sol) 79
 set (ssh) 81
 set tftp-ip (tech-support) 90
 set (vmedia) 85
 set (障害) 63
 set (ネットワーク) 75
 set (ユーザ) 83
 show actual-boot-order (BIOS) 91
 show bios 92
 show certificate 94
 show chassis 96
 show cimc 97
 show configuration pending 98
 show cpu (シャーンシ) 99
 show dimm (シャーンシ) 102
 show entries (sel) 106
 show entries (ログ) 104
 show fan (センサー) 108
 show fault 110
 show firmware 111
 show hdd (シャーンシ) 113
 show http 114
 show ipblocking (ネットワーク) 115
 show ipmi 116
 show kvm 117
 show ldap 118
 show led (シャーンシ) 119
 show network (cimc) 120
 show pef (障害) 121

show psu-redundancy (センサー) 125
 show psu (シャーンシ) 123
 show psu (センサー) 124
 show sol 126
 show ssh 127
 show tech-support (cimc) 128
 show temperature (センサー) 129
 show trap-destination (障害) 130
 show user 131
 show user-session 133
 show version 134
 show vmedia 135
 show voltage (センサー) 101
 start 136

T

terminate (ユーザセッション) 137
 top 138

U

update (ファームウェア) 139
 upload 140

Y

YAML 5

さ

サーバの概要 1